

# 社会実験報告件数 と 参加企業数

## 【社会実験】

報告件数 **3,196** 件

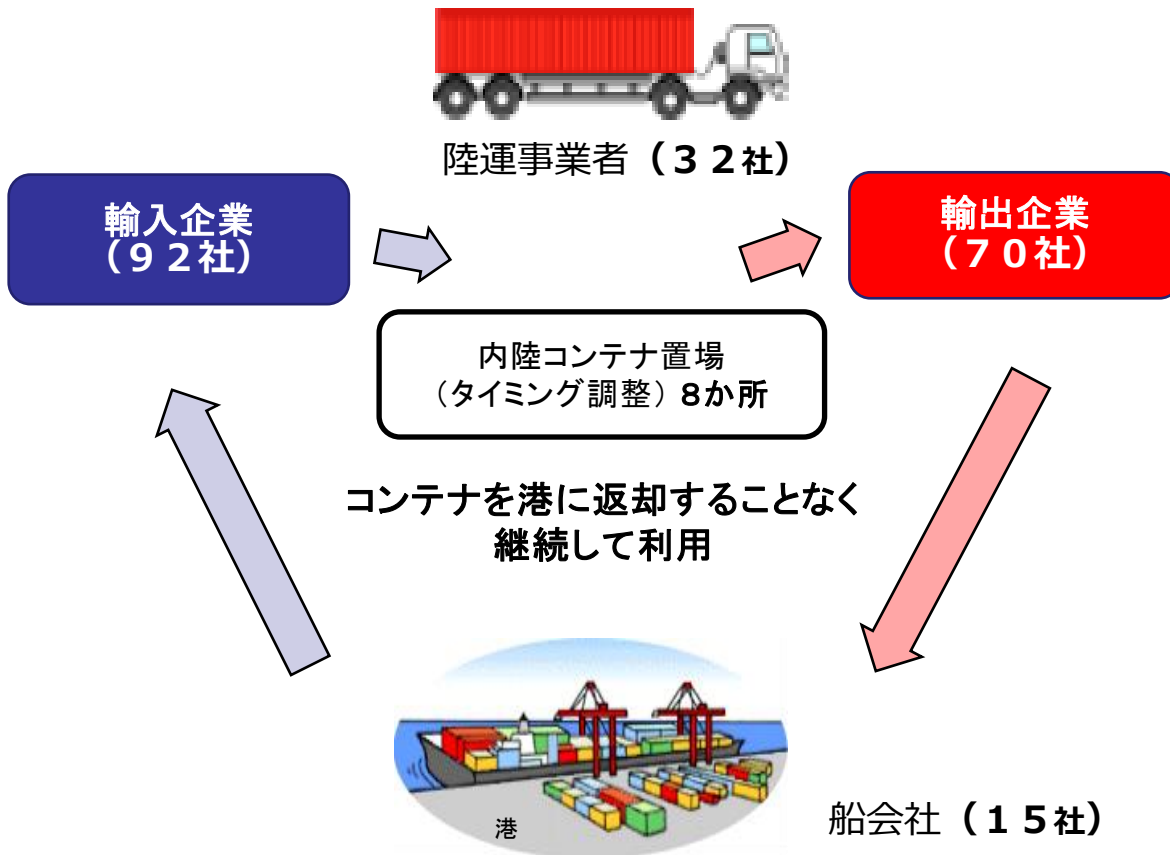
(内貨転用 21件含む)

1ラウンド：1件

報告者 (18社)

CRUに取り組む企業数

合計 **217** 社



# 効果

## 【社会実験】

### ■コンテナ輸送距離 **32.3%減**

平均71.6km減／ラウンドユース1回

コンテナラウンドユース実施前 703,882km → 実施後 476,454km

### ■輸送時間 **39.0%減**

平均4.9時間減／ラウンドユース1回

コンテナラウンドユース実施前 40,114時間 → 実施後24,450時間

#### ※算定条件

走行距離及び所要時間は国土交通省NITAS  
(全国総合交通分析システム)により計測

港の待ち時間は、東京港60分、横浜港50分、川崎港10分  
として試算

(\*東京港と横浜港は、各県トラック協会による「コンテナターミナルにおける海上コンテナ車両待機時間調査結果」に基づき概ねの平均値として設定。川崎港は川崎市ヒアリング結果に基づく)

### ■CO<sub>2</sub> **240.1 トン削減(総計)**



スギ 17,148本／年 CO<sub>2</sub>吸収相当

※算定資料 経済産業省及び林野庁  
輸送距離の削減に加え、港の待ち時間でのアイドリング削減も燃料消費量1.25L/hで試算し加えている

### ■輸送コスト **21.0%減**

※算定条件 S58タリフ

埼玉県都市計画課 試算  
※内貨転用は除いて計算

# コンテナラウンドユース構成員の取組紹介

表紙

## コンテナラウンドユース 構成員の取組紹介



平成 29 年 3 月  
埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会  
埼 玉 県

1ページ目

### 1. コンテナラウンドユース（CRU）とは

コンテナラウンドユースとは、輸入で使用したコンテナを、港に返却せずに輸出で継続使用する取組です。

長時間の空走行・港での待機時間を減らし、物流の効率化・ドライバーの労働環境の改善・CO<sub>2</sub>排出量の削減が期待できます。

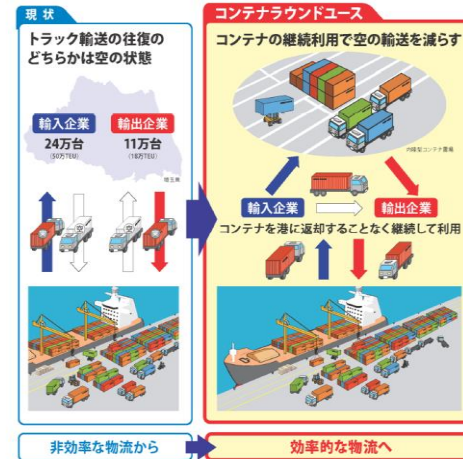


図 コンテナラウンドユース（CRU）とは

# 取組掲載構成員

## ■ 荷主

(株)ニトリ  
本田技研工業(株)  
(株)タニタ  
東方物産(株)  
(株)コメリ  
クラリオン(株)  
藤倉ゴム工業(株)

## ■ 陸運事業者

日本コンテナ輸送(株)  
日本通運(株)  
日本高速輸送(株)  
八潮運輸(株)  
タツミトランスポート(株)  
ケービーエスクボタ(株)  
日本フレートライナー(株)

## ■ 船会社

オリエントオーバーシーズコンテナライン  
Pan Oceanコンテナ日本(株)  
SITC JAPAN(株)  
南星海運ジャパン(株)

## ■ その他物流関係

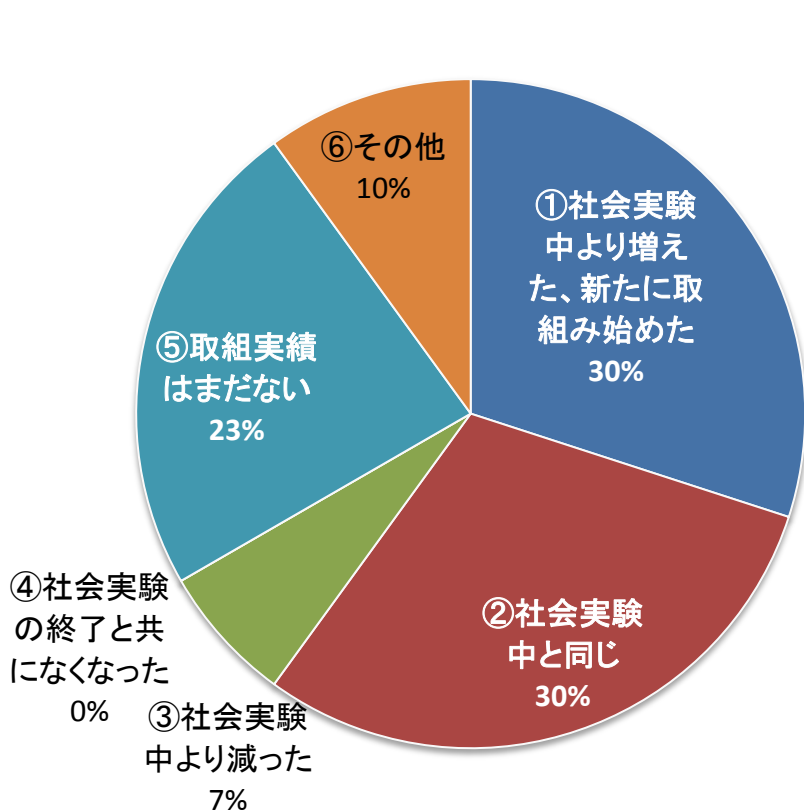
濃飛倉庫運輸(株)  
トレードシフトジャパン(株)  
(株)カンロジ

(取組紹介掲載順)

# <コンテナラウンドユースの取組・協議会の運営について>

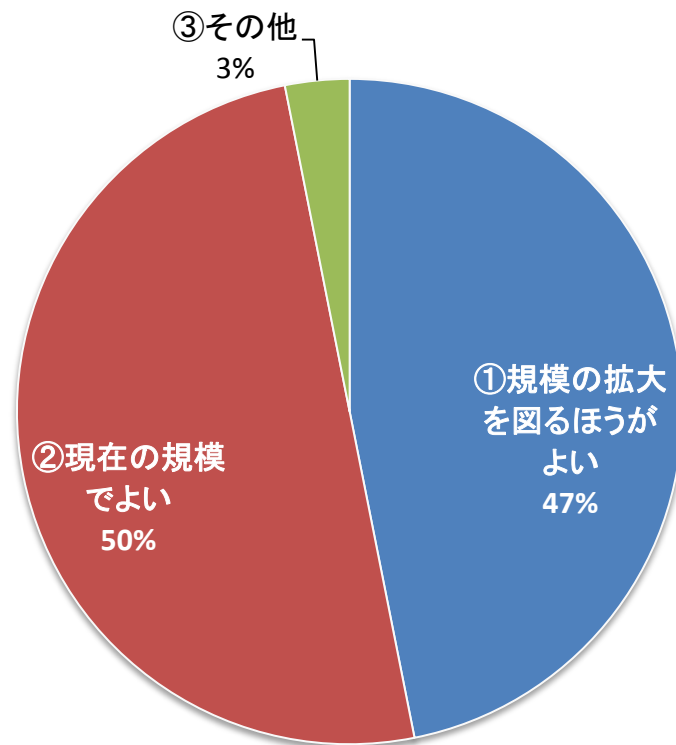
## <コンテナラウンドユースの取組について>

■ (Q1-1) 今年度の取組状況について



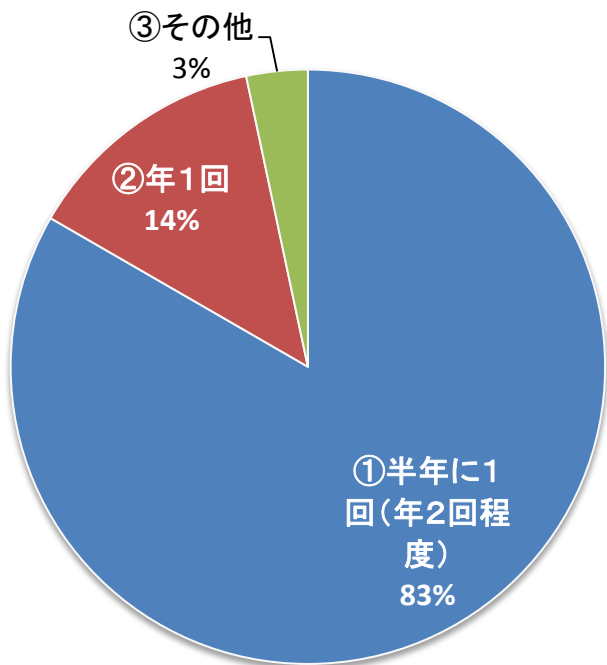
## <協議会の運営について>

■ (Q3) 協議会構成員の規模



# <協議会の運営について>

■ (Q4) 協議会の開催頻度



■ (Q5-1) 協議会の運営のあり方

